

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0855
 住 所 川崎市川崎区千鳥町10番1号
 氏 名 日本合成樹脂株式会社
 代表取締役社長 下村 啓 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本合成樹脂株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町10番1号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業 (別掲を除く)
主たる事業 の内容	石油樹脂製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,860	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度 ～ 平成30年度 (報告年度 29年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 4,808 t-CO ₂ (調) 4,808	(実) 4,573 t-CO ₂ (調) 4,573	(実) 5,273 t-CO ₂ (調) 5,273	(実) t-CO ₂ (調) t-CO ₂	(実) 5,434 t-CO ₂ (調) 5,434
削減率		(実) 4.9 % (調) 4.9	(実) -9.7 % (調) -9.7	(実) % (調) %	(実) -13.0 % (調) -13.0

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		単位	kl/t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.2264	0.2300	0.2213		0.2197
削減率		-1.6 %	2.3 %	%	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・基準年度対比 7%生産量が減少した結果、温室効果ガス排出量は 4.9%削減となった。 ・原料精製蒸留塔稼働日数が基準年度対比 21日増加したことにより、エネルギー原単位としては 1.6%増加となり削減目標 1.0%には至らなかった。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・基準年度対比 12%生産量が増加した結果、温室効果ガス排出量は -9.7%と増加になった。 ・原料精製蒸留塔稼働日数が基準年対比 37日増加したが、エネルギー負荷を抑制した蒸留塔運転を行った結果、エネルギー原単位としては 2.3%削減となり、削減目標 2.0%を達成した。 ・定期修理工事年で、エネルギー源となる設備の点検・清掃により効率改善を行った。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 2系列の熱交換器(プレヒーター)汚れ係数データの解析及び保全計画(プレヒーター清掃頻度)の見直し (2) 平成31年冷凍機更新計画(省エネタイプ)及び冷凍機の成績係数(COP)からの保全計画(凝縮器清掃頻度)の検討 (3) 平成29年一部設備のMCC盤(モーターコントロールセンター)及びポンプ更新に伴う適正稼働台数の調整の検討 (4) プラント照明設備のLED化(計画更新) (5) 熱媒配管及びプロセス配管保温材不具合箇所の計画補修 (6) 装置稼働に応じた加熱炉負荷に合わせた、適正な切替式バーナータイプの増設見直し検討
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> (1) 2系列の熱交換器(プレヒーター)汚れ係数データの解析検討継続実施 (2) 平成31年冷凍機更新計画(省エネタイプ)の検討開始 既設冷凍機運転データ整理 (3) 平成29年一部設備のMCC盤(モーターコントロールセンター)の余寿命診断実施 (4) プラント照明設備のLED化(計画更新)実施 (5) 熱媒配管及びプロセス配管保温材不具合箇所の計画補修実施 (6) 装置稼働に応じた加熱炉負荷に合わせた、適正な切替式バーナータイプの増設見直し検討継続実施
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> (1) 2系列の熱交換器(プレヒーター)汚れ係数データの解析検討継続実施⇒熱交換器(プレヒーター)の機器更新を行った。 (2) 平成31年冷凍機更新計画(省エネタイプ)の検討開始 既設冷凍機運転データ整理⇒完了 省エネタイプ冷凍機(ターボ型)に仕様変更する。(更新は平成32年中に変更) (3) 平成29年一部設備のMCC盤(モーターコントロールセンター)の余寿命診断実施⇒余寿命診断異常なし(別途、検討) (4) プラント照明設備のLED化(計画更新)継続中 (5) 熱媒配管及びプロセス配管保温材不具合箇所の計画補修継続中 (6) 装置稼働と加熱炉負荷に応じた、適正な切替式バーナータイプの増設見直し検討継続中
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 一般廃棄物の削減 紙管理記録類の電子化によりコピー用紙使用量の削減を図る。 (2) 不合格品発生量原単位の削減 <ul style="list-style-type: none"> ① 銘柄切替時の端切品の削減 ② 工程内端切品発生量の削減 ③ 最終製品における不合格品発生量の削減 (3) 森林保全活動への参加 E N E O Sみらいの森活動への参加
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> (1) 一般廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ① 一般廃棄物削減 (基準年度=21.7kg/人→2016年度=21.7kg/人) ② 紙管理記録類の電子化によりコピー用紙使用量の削減 (基準年度:84,000枚→2016年度:69,000枚) (2) 不合格品発生量原単位の削減 <ul style="list-style-type: none"> ① 規格外品発生率 (基準年度=0.66%→2016年度=0.31%) ② 工程内端切品含む不合格品発生率 (基準年度=1.66%→2016年度=1.21%) (3) 森林保全活動への参加 E N E O Sみらいの森活動への参加 2016年度=(春)3名、(秋)8名参加
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> (1) 一般廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ① 一般廃棄物削減 (基準年度=21.7kg/人→2017年度=23.6kg/人) ⇒事務所清掃及び定期修理工事資材購入梱包材処分により悪化 ② 紙管理記録類の電子化によりコピー用紙使用量の削減 (基準年度:84,000枚→2017年度:74,000枚) (2) 不合格品発生量原単位の削減 <ul style="list-style-type: none"> ① 規格外品発生率 (基準年度=0.66%→2017年度=0.56%) ② 工程内端切品含む不合格品発生率 (基準年度=1.66%→2017年度=1.43%) (3) 森林保全活動への参加 E N E O Sみらいの森活動への参加 2017年度=天候不良のため中止
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	5,254	t-CO ₂
(調)	5,254	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
日本合成樹脂株式会社	川崎市川崎区千鳥町10番1号	1635	プラスチック製品製造業	5,254 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--